Prof. Dr. phil. habil. Erika Schuchardt
Leibniz Universität Hannover
www.prof-schuchardt.de • info@prof-schuchardt.de

30173 Hannover
Geibelstraße 107
mobil: 0170-4030304

Japanische Übersetzung 2011

Hinweis: - *in (Klammern) Erläuterungen*

- *getippte, aber durchgestrichene Worte, ~~xxx~~ bitte in der Übersetzung durch das nachfolgende Wort austauschen*

「ベートーヴェンの夕べ」」　日独交流 150 周年記念

危機から幸福へ

このくちづけを全世界に　」— ベートーヴェンの危機から幸福への創造的飛躍

《第九交響曲》　指揮　樋口隆一教授、東京

00:18:57 「ベートーヴェンの夕べ」ご来場の皆様」

– ベートーヴェンの輝かしい歓喜は」

届きましたでしょうか？」

ただいまの演奏は樋口先生が指揮されました。」

00:19:16

あなたはこの本の翻訳を企画され、」

出版社との交渉の過程で私たちは友人となり、」

福島をめぐる議論もしました。」 Kann getrennt ins nächste Bild kommen.

00:19:43

そして「日独交流 150 年」を祝ういま、」

深い友情で結ばれています。」

- 《第九》の終楽章を知らない人がいるでしょうか？」
- そこで述べられた「くちづけ」を、ベートーヴェンの」

  個人的メッセージとして体験しない人がいるでしょうか？」

- しかしこのくちづけの秘密がどこにあるかと

00:20:05 問うた人がいるでしょうか？」

私はベートーヴェンの人生をたどり、発見しました。」

この「歓喜の頌歌」は世界 156 カ国で頌歌や国歌に

なっているのです。」

00:20:42 ロシアから日本を経て 1974 年にはジンバブエまで」

人々の感激は収まる気配もありません。」

日本で体験したのは、このヨーロッパの「歓喜の頌歌」が」

幼稚園や、富士登山、大学の演説の前に大声で歌われる」

ということです。」

本題に戻りましょう。200 年前グリルパルツァーの弔辞は」
次のように語ります。」

00:21:22 ひとりの男が早足で歩いている。」
彼の影といっしょに」

飛び込むのだろうか。するとごらん」
彼は怪我もなく奈落を飛び越えた。」

勝利者として、彼はすでに目的地に立っている。」
ただし彼は道を開くことはなかった。」

00:21:42 若きグリルパルツァーは「彼は道を開くことは」
なかった」言いましたが、200 年後のいまも」
この言葉は正しいと言えるのでしょうか。」

最近の研究によると　」
―　私は世界中の 2 千人もの伝記を調べましたが　―　」

グリルパルツァーがまだ開かれていないとした道は」
世界中の誰もが辿った道であることがわかりました。」

打ちのめされた人は、自信を失いながらも」
スパイラルを辿って新たな連帯へと至るのです。」

樋口先生が言われたように、問題は周囲の我々なのです。」

ベートーヴェンの悲劇と言われましたが、」
当時はこのように考え直すことができなかったのが」
悲劇だったのです。」

ベートーヴェンは、終わり無き散歩を通じてこの道を歩み、」
あらゆるダメージや危機を乗り越えて飛躍を成し遂げました。」

00:23:01

- 肉体的危機　２１歳で難聴が始まる」
- 芸術的危機　死への願望」
- 政治的危機　政治に幻滅」
- 経済的危機　土地持ちではないが、弟にユーモアで」
  「頭脳所有者」と答えた。」
- そして最後にひどいアイデンティティーの危機。」
  生涯を通じて「愛されず」」
  死後ようやく「愛される」」

00:23:32 こんな状況を克服できる人がいるでしょうか？」

ベートーヴェンのモットーは 」
「おお神よ　自分に打ち克つ力をください」」

日記にも書いています。」

お前は人間であってはならない」
ただ他のものたちのために　ああ神よ 」
我に己に打ち克つ力を与えたまえ」

00:23:58 クリムトはこのことをベートーヴェン・フリーズの中で」
「美しく装った強さ」として描いています。」

マーラー記念年のいま付け加えたいのは」

その人物がベートーヴェンにもマーラーにも」
似ているということです 。」
答えはありません。」

ふたりとも闘う人で道を求める人、」
ふたりとも社会から疎外されていました。」

00:24:20 ベートーヴェンが進むことができたこの道は」
多くの人の人生のスパイラルとしては歩め」
なかったということです。」

当時の社会は、頭の切り替えができなかった。」

他人の状況を理解し、状況を取り替えることで」

新たな状況の交差にいたることができなかった。」

こんにちの教育の可能性は当時は存在しなかった。」

教育の続行によって融和とか解決を実現し」
介護によって助けることはなかった。」

00:25:11 この頭の切り替えをわかりやすく説明するために」
少し大げさですがコペルニクスを例に取りましょう。」

「地球」中心説は「自己」中心説に置き換えられます。」
天動説から地動説への転換です。」

相補的な生き方は、ドイツ連邦議会の円蓋に」
見ることができます。」

人々は右回りで昇り、帰りは左回りで降りるのです。」

議事堂の開館式の時に建築家のノーマン・フォスター卿」
にたずねました。『石とガラスとコンクリートでどんな
哲学を形作られたのですか？』

彼の答えはこうでした。」
『円蓋には昇って降りる以外に道はないのですよ』

これがガラスと鋼鉄とコンクリートによるメッセージです。」

スパイラルの原型が大昔から自然や文化、科学技術に」
存在したことを説明しましょう。」

- スパイラルの原型は渦巻き星雲です」
- 酸化作用における相補的なスパイラルです」
- DNA の相補的スパイラルも有名です」

00:26:41 文化の領域にも例はたくさんあります。」

- 神殿の入り口の相補スパイラルの敷居です。」
- ファラオの第 3 の目は火を吐くウレウスですが、」
  これもスパイラルです。」
- サマラの神殿にある 8 重の道も相補的スパイラルです。」

00:27:10 つぎは建築の例です

- ボロブドゥールにある 8 重の救いの道」
- ハノーヴァー万博での『ファウスト』の救済の」
  スパイラル」
- これは計画のみで終わりましたが、リーベスキントは」
  世界貿易センターに 1776 段の上昇するスパイラルを」

設計しました。」

00:27:38 人生のスパイラルを使ってグリルパルツァーの考えを」
否定し、その研究の背景を明らかにしましょう。」
世界中の 2000 の伝記を研究しました。ドイツ語が 1300」
他言語からの訳が 700 です。」

人生の危機を述べている有名な伝記はつぎのものです。」

00:28:08

- シュリンゲンズィーフ『天国だって同じこと』」
- フランクル『それでも人生にイエスと言う』」
- 大江健三郎『個人的体験』」
- 最後にベートーヴェンだけでなくアメリー」
  『自らに手をくだし -自死について』」

これらの自伝はどれも世界的に知られたもので、」

彼らはまただれもが、私が証明した人生のスパイラルを」

歩んだ人たちです。」

00:28:44 私は危機を 2 種類に区別しています。」

ひとつは人生の過程における危機で人生の岐路に起こり」

「予測可能」なもの、出産、学校、職業、パートナー、」

定年、老化、死がそれです。」

これらは予測可能で、計画も可能です。」

それでも人生の最後には「突然、しかもはからずも」

99 歳で世を去る」ことになる、」

しかし問題はもうひとつの人生を崩壊させる危機のです。」

我々の型どおりの人生を電撃的に変え、」

ベートーヴェンにとって特に重要です。」

個人的レベルでは、障害児の誕生（大江健三郎の場合）」

子供ができないこと、パートナーの喪失、失業、事故、」

病気があります。」

集合的レベルでは、自然災害、福島原発事故、人権侵害、」

拷問、戦争、テロがあります。」

00:29:46 これらの危機には特徴があります。」

00:30:19

この 1 世紀を顧みると、1970 年代までは主として」

「障害」が問題でした。」

1980 年代には癌、エイズ、アルツハイマーのような」

「長期にわたる疾病」が」

1990 年代には主として「人生をおびやかす事件」、」

「ショア」つまりホロコーストの修正評価が」

そして 2000 年代は性的虐待や環境災害が問題です。」

読者のために、研究をまず書き手の観点でまとめた」
文献表に変えました。被害者、パートナー、母、父、」
専門家の助けを受けた被害者というふうに。」

さらに危機の事象にしたがっても分類しました。」
今日それはビブリオ・セラピーと呼ばれています。」
一冊の本は全世界で一人の友となり、話し相手となります。」

いま皆様を、人生のスパイラルの諸段階にご招待しますから」
歴史資料とともに、ベートーヴェンが彼の人生を通じて」
いかにみごとに勝利したかを発見していただきたいのです。」

一瞬でもいいから想像してください。」
被害者であれ、介助する人であれ、次のようなことを。」
00:31:20 病気で、癌やアルツハイマーになったと想定します。」
これから生まれる子供や孫が障害をもって生きなければ」
ならない。パートナーが事故に遭い、対麻痺が予想される。」

ドイツ出張から日本に帰国すると空港で次のように言われる。」
「あなたはたったひとりになりました。津波があなたの家族を」
飲み込み家屋敷も故郷も汚染されています。一から始めねば」

成りません」」

00:32:02 この知らせに彼は雷に打たれたようになります。」
彼は「打ちのめされた」と言うでしょう 。」

慣れ親しんだた生活は一瞬にして粉々に壊されます。」
彼はスパイラル第 1 時期で「いったい何が起きたのだろう」」
といいます。」

－ 「いったい何が」というのは、会話セラピーでは」
あり得ないことが起こって支離滅裂になったということです。」
00:32:47 ベートーヴェンを見てみましょう。」
彼は 20 歳で「不確か」なこの時期に入り、」
口外しないという約束で親友で神学者のアメンダに」
手紙を書きます。」

「親愛なるアメンダ」
「君のベートーヴェンはとても悲しく不幸に過ごしています」

「僕の聴覚のことはどうか誰にも話さないで下さい」
「僕は神と世界と闘いながら生きています」

00:33:19 そしてのちに医者となる友人のヴェーゲラーにも書いています。」
「君のベートーヴェンは落後しました」」

「ただ嫉妬にかられた悪魔が、僕を打ちのめしたのだ」」
「僕は僕という存在、僕の人生、そして創造主を呪った」」

「どうかだれにも、とりわけロルヒェン（共通の女友達）」
には言わないで、秘密にしておいてくれよう君に頼みたい」」

00:33:53 これはベートーヴェンが持っていた「不確かさ」のひとつ、」
難聴です。」
しかし彼は社会心理学的にさらに多くの「不確かさ」
を持っていました。」

資料をご覧下さい。」
彼の誕生、年齢、出生も不確かでした。」
出生証明書は死ぬまで信じずに、言いました。」

「それは私の者ではない」」
「それは兄のために書かれた者で、私は彼の代理人ではない」」

00:34:21 まず年齢。彼は自分が何歳かを知りませんでした。」
父は彼を若く偽りました。」

ベートーヴェンは《葬送行進曲による変奏曲》に」
「10 歳」と書いていますが実際はすでに 12 歳でした。」

歌曲《ヤン、君は生まれた》に 10 歳のベートーヴェンは」
「みどりごに。君はまだ誰の子か知らない」と書いています。」

彼は誰が自分の両親であるかを知りませんでした。」
アル中の人間が両親とは信じられず、自分を王侯の」
末裔と信じていたのです。」

このような二重の不確かさが、彼の人生の特徴です。」

ピアニストのコンスタンティン・バルツァントニーさんが」
次のような手紙を下さいました。」

「ピアノ曲最大の独白であるハンマークラヴィーア・ソナタは、」
ベートーヴェンの人生のスパイラル 8 段階にほかなりません」」

それでは彼の演奏で、ハンマークラヴィーア・ソナタ第 1 楽章から」
スパイラル第 1 期をお聞き下さい。」
（アレグロ、提示部、主要主題の紹介）

➜ Audio. Text Pianist folgt:

00:35:42 ハンマークラヴィーア・ソナタは8つのスパイラルそのままと見る」
ことができます不確かさの時期は第1楽章全体にわたっています。」

冒頭で彼は、いまだかつてない勝利不可能な闘いに挑もうとしています。」 （1～4小節）

00:36:07 その後、ポリフォニーの救いのないもつれに迷い込み、」
そこからなんとかして逃れ出てはじめの活発さに戻ろうとします。」 （5小節以下）

00:37:09 さらにベートーヴェンは、ポジティヴな長調から次の調を」
探し始めます。」
本来、第2主題は、ソナタ形式の規則に従えば、自然な」
ヘ長調のはずです。」

しかしベートーヴェンはその調を避け、ずっと闘争的なニ長調をとり」
それから喜ばしいト長調に進むのです。」 （37小節）

00:38:00 再現部でさえ、彼は最初の主題部分で主調の変ロ長調から離れ、」
変ト長調へと迷い込みます。」 （249小節以下）

00:38:36 彼自身「喪服の調性」と呼んだロ短調によって、」
彼は破綻をもたらし、そこからやっとこさ起き上がって、」
何事もなかったかのように変ロ長調で続けます。」

しかし破綻はあったのです。」（267小節）

00:39:14 スパイラル第 2 期「確信」は必ずやってくる」
「そうだ、だがそんなことがあり得ようか」」

頭は「イエス」というが、心は「ノー」という。」
あってはならないことはあり得ないからである。」

00:39:34 ベートーヴェンは、みずから口外を禁じたため、遺書を書く」
しかありません。その遺書は、弟カールのほかは宛名もなく」
空欄で始まります。家族との和解もなく生きているからです。」

「おお、おまえたち、私をかたくなで敵意に満ち、」
　人嫌いだとみなす者たちよ」」
「なんと不当な仕打ちであることか」」
「おまえたちは私の苦しみの隠れた原因を知らない」」

こうした周囲にまつわる苦しみを彼はすでに 200 年前に」
遺書に書いている。」

さらに「誤解されねばならないことで、私の不幸は倍増する」
「流刑者のように生きねばならないのだ」」

00:40:38 絶望は大きく、彼はハイリゲンシュタットで遺書を書いています。」
しかし遺書で重要なのは逆さまに書かれた最後の文章です。」

遺書は 4 つ折りになっているので、上下逆さまになっています。」
それを回転すると、次のように書かれています。」

「おお、神の御心よ－　どうか 1 日でよいから」
　歓喜の日を見せて下さい－」」
「うそだ－それではあまりに酷すぎる」」

00:41:19 ベートーヴェエンは 28 歳でこの遺書を書きましたが、」
危機の克服のプロセスを経て 56 歳で「歓喜の頌歌」を生むまでに」
さらも 28 年を費やしているのです。」

ベートーヴェンは周囲との問題に悩んでいました。」
「現実であることを常に言わないようにする」という」
「無関心の規則」のことです。」

弟子のリースとハイリゲンシュタットを散歩していると」
弟子は言います「牧人の笛の音を聴かれましたか」」
ベートーヴェンが「聴かなかった」と答えると、」」

00:42:13

リースは「牧人はいなかったし、私も何も聴きませんでした」」
と答えます。」

ベートーヴェンは遺書のなかで、リースの名は告げずに」
「なんという侮辱だろう」と書いています。」

そしてつまり周囲の人間であるリースはベートーヴェンの」
死後 10 年たってようやく彼のベートーヴェン伝で真実を」
言うというコペルニクス的転回をとげるまで」
じつに 35 年もかかるのです。」

00:42:36 否認、排除、隠蔽に常にいらだっていたベートーヴェンは」
常に誤解のうちに生きて、和解の贈り物をする必要がありました。」

彼は友人のアメンダに弦楽四重奏曲を送りこう書いています。」
「我々の友情の記念碑であるように」」

友人のブロイニングには象牙に描いた小さな絵を送りこう書きます。」
「この絵の背後には、長年我々の間にあった全てが隠されている」と」

当時の被害者は、介助者がいれば、真実の発見ないし」
00:43:10
真実の仲介を適切に案配してもらえましたが、」

介助者がいない場合、「情け容赦のない真実の解明」」

以外の結末はなかったのです。」

ハンマークラヴィーア・ソナタの第 2 楽章スケルツォは」

次のように響きます。」

➜ Audio. Text Pianist folgt.

00:43:35 「スケルツォでベートーヴェンは若者のように」
跳び回ります」」
ふつうは8小節であるかわりに7小節の楽節のあとは、」
なんども嘆きつつくずおれます1小節以下）。」

00:44:03 「ベートーヴェンはアクセントを間違った箇所に」
置いています」
「彼は秩序を失ったのです。
小節の1拍目がどこにあるかわかりません」」
（14小節以下）

00:44:25 「こうしたことを彼は全曲にわたって続けます」」

被害者は遅かれ早かれ、頭で考えられていた初期の段階から、」
長く抑鬱されていた感情が爆発し、攻撃へと移ります。」

被害者は叫びます。　「なぜこの私が」と。かつては」
「なぜ私はそうならないのか」と考えたことはありません。」

ベートーヴェンは得意の抑えがたい攻撃性を爆発させます。」
目の前の全てを攻撃しますが」、
それは本来の攻撃の対象であるべき難聴は理解不能だからです。」

00:45:14 皆さんに伺いますが、何に対して攻撃的になられますか？」
笑っておられますが、それは秘密の宝物を心に持って」
おられるからです。」

攻撃性が向けられるのは、私が愛されるところ、」
閉ざされない隙間があるところです。」
私には「攻撃性は愛の証」という明快なテーゼがあります。」

00:45:48 ベートーヴェンのそうした「愛の証」をたくさん残して」
くた歴史上有名なものに「テプリッツ事件」があります。」

ゲーテは敬意を込めてお辞儀をしているのに、」
ベートーヴェンは誇り高く頭を上げて皇帝の一行を」
突っ切ったのです。」

00:46:12 ベートーヴェンは親しい友人たちにも「攻撃性は愛の証」」
であることを示しました。」
弟子のリース、後援者のリヒノフスキー、さらには」
グリルパルツァーの母親にも一生彼の音楽を聴いては」
いけないと命じたのです。なぜでしょうか？」

リースはベートーヴェンが作曲しているのを聴き、」
「すばらしい作品を書いている」とリヒノフスキーに」
報告し、彼に弾いて聴かせたのです。」

リヒノフスキーはベートーヴェンを驚かそうと思い、」
翌朝、彼に弾かせたのです。」
ベートーヴェンは裏切られたと思い、「俺のアイディアを」
盗んだな」と言ってリースに彼の演奏を聴くことを禁じました。」

リヒノフスキーが「悪いのは私で、昨晩弾いてもらったのだ」」
と言うと彼も聴くことを禁じられ、」

以後、彼のパーティーや演奏会では決して演奏しなかったのです。」

第 3 の例はグリルパルツァーの母親です。」
彼女はハイリゲンシュタットで同じ家に住んでいました。」

そこで彼女は廊下で演奏を聴こうとしたのです。」
以後、ベートーヴェンは決してハイリゲンシュタットでは」
演奏しませんでした。」

もっとも有名な攻撃性の証拠は、ベートーヴェンが」
掻き取った有名な総譜の穴です「私はナポレオンに自由、」
平等、友愛の交響曲を捧げましたが」

成り上がり者は自らを皇帝に任じおった」と言って、」
失望のあまり穴を開けてしまいました。」

ハンマークラヴィーア・ソナタにおけるスパイラル」
第 3 期を聴きましょう。」

➜ Audio. Text Pianist folgt.

00:48:04 最後にベートーヴェンは正しく怒りを爆発させて高揚し」
ぶつかり合う変ロ音とロ音のあいだを行き来して」
非常に攻撃的にロ音へとぶちあたります。（160小節以下）」

00:48:27 「ここで彼は、何もなかったかのように笑おうとします」
「しかし、いまこそそのときだとさとるのです」

00:48:36 攻撃性と平行して「交渉」が行われることもあります。」
「こうであれば、こうに違いない」というわけです。」

医師や奇跡、神との交渉が行われます。」
医者のデパートですね。」

ベートーヴェンはテプリッツ、ハイリゲンシュタット、」
マリエンバートに通い、あらゆる治療を試します。」
奇跡をあてにすることもあります。」

想像上の対話を試み－人嫌いですから－医師に手紙を書きます。」
「医者は死の扉を閉め、メモは窮地から救う」」

00:49:22 これは治療の依頼に添えた医師との陽気な交渉です。」
さらに劇的なのは甥のカールによる代用愛にまつわる」
交渉です。」

死の床にあった換えが兄から単独養育権を奪い取った」

裁判の書類は厖大なものです。」
カールの母は生涯かけて提訴されていました。」

そしてベートーヴェンはそのことに憤慨し書いています。」
「このろくでなし」「私の奴への愛は終わった。」
愛を必要とするのは奴で、私ではない」」

誰かが何か言うと、彼もそれについて発言しますが、」
疑わねばなりません。結局のところ彼の結論は」
「私の言うことが正しくないことは誰でも知っている」」

裁判は彼の勝利で終わりましたが、カールは自殺を試みました。」
悲劇ですね。」
そしてベートーヴェンも 8 ヶ月後に世を去ったのです。」
ハンマークラヴィーア・ソナタ第 3 楽章アダージョは」
次のように響きます。」

00:50:42

➜ *Audio. Text Pianist folgt.*

00:50:57 「今ベートーヴェンはそのことを知るためにゆっくりした」
第3楽章を終えます。」
ー20分ーこれはピアノ曲としては最長かつ最深の独白です」」

「彼を悲しませる全てが机上に並べられます。長調であれ」
短調であれ、あらゆる調性に光が当てられ、どれが本当か」
試されます」」

「調性システムにおいては存在せず、補助手段を用いてのみ」
示すことのできる。」
嬰ニ長調でさえ登場するのです」（142小節以下）

00:52:50 「ふたつの楽想によって、ベートーヴェンはついに平和を」
見出したかに見えます」」
「子供の頃の思い出である楽しいト長調と、」
最高の精神を表す嬰ヘ長調です」」

「そろそろ終わるかに見えても、彼は満足せずに続けます」」
「彼はまさにこれらふたつの調性の間で交渉を続けて」
いるのです」（146小節以下）

00:54:20 「抑鬱状態」（スパイラル第 5 期）がやってきます。」
「何のために…すべては意味がないのか」」

死のテーマはベートーヴェンには始めからつきまとって」
いました。」

- 《葬送カンタータ》（紛失、10 歳のとき）
- 《葬送行進曲による変奏曲》（10 歳、実際は 12 歳）
- 《オリーヴ山上のキリスト》
- 《ゲレルト歌曲集》
- 《エロイカ》の有名な葬送行進曲
- 《フィデリオ》の囚人の合唱
- 《運命交響曲》

00:55:02 主題は常に、変身のカタルシス（浄化）としての英雄的な」
死による英雄の勝利です。」
死の主題と並ぶ中心的主題は「愛の欠乏」です。」

ベートーヴェンは公式に記録されているだけで 28 回も」
肘鉄を食らっています。」
だから有名な「不滅の恋人」への手紙が」
危機の克服の過程として想像で書かれた可能性もあります。」
この手紙には呼び掛けも、書かれた場所も、宛名もないからです。」
数多くの文献がこの問題について論じています。」

00:56:05

手紙のオリジナルは遺書と一緒に書き机の中で見つかりました。」
我々はコピーショップの時代に生きていますが、誰がこの」
手紙を写したのでしょうか？」
恋文をコピストに渡したりするでしょうか？」

ベートーヴェンが遺書を書いたのは残すべき遺産が」
あったからではなく」
「おお、おまえたち、私をかたくなで敵意に満ち、」
人嫌いだとみなす者たち」への弁明とするならば」

この手紙も－《フィデリオ》にみられるように
－彼が心の底では愛する人であったことを正当化する資料」
でした。」

00:56:48 こうした悲しい作業がいかに暗いものであるかは、」
ドレル・ドボカンのこの絵からわかるでしょう。」

彼をハンストによってルーマニアから救い出した妻が」
脳腫瘍にかかったときに描いたものです。」

彼はこの絵をルプレヒトさんの出版社から出たもう 1 冊の本」
『なぜこの私が』のために下さったのです。」

この肖像画の暗闇から、希望が斜めに差し込んでいます。」

唇はなにかを話そうとし、薄目をあけ、絶望、制御不能な感情から」

「目標段階」である克服可能で自ら決定可能な」
「受け入れ」（スパイラル第 6 期）へと移行しようとしています。」

ハンマークラヴィーア・ソナタではこのように響きます。」

➜Audio. Text Pianist folgt.

00:57:50 ポジティヴな調性であるト長調と嬰ヘ長調のあいだで迷った後、」
ベートーヴェンは深い抑鬱にいたります。」

彼はもういちど楽章の冒頭を示しますが」
すこし薄暗く、悲しげです。（166小節）

00:58:42 最後に彼はもういちどかすかな希望の光を示そうとします。」
悲しげな和音を奏でますが、この嬰ヘ長調の最後にかすかな」
光をゆるすのです。」

00:59:38 その人は暗闇のなかを、最も暗い井戸の底まで辿り着きました。」
しかし彼の足の下には地面があり、体をぶつけて自分の道を」
探すこともできます。」

これが「今ようやく分かった」というスパイラル第6期」
「受容」です。」
「ロトは振り返らない」（旧約聖書）とあるように、」
彼はもはや失ったものを求めず何がまだあるか、」
そのあるもので何ができるかが分かるようになります。」

「受容」は積極的賛成ではないが、分別を知りながら」
尾根歩きで限界まで行き、敢えて先のもう一歩を踏み」
出すことです。」

01:00:33 ベートーヴェンは苦悩の意味が明白となったことで」

「受容」を見出したように思えた。」

そこで彼はやはり重度の被害者であったエルデーディ伯爵に」

手紙を書きます。」

「我々は限りあるものを、苦難と歓喜への限りない精神を」

持って生まれたのではないか」」

彼はさらに付け加えています。」

「我々は苦難を通じて歓喜へと定められた者である」

といってほとんど正しい」」

01:01:14 彼はこうしたユニークさを、彼の難聴、彼を特別扱いする」
周囲と関係において「小川のほとりで田園交響曲を」
作曲しているベートーヴェン」と表現します。」

彼は自らをパロディー化して「旗印（メモ帳）」」
なしに来てはならない」と言います。」

「私の音楽をどこから取るかって？簡単さ、あらゆる」
方向から飛んでくる。私は神が与えてくださる音を」
ただ書き記せばよいのだから」」

ユニークであること、これはベートーヴェンにとっての」
「受容」なのです。」

ハンマークラヴィーア・ソナタではこのように響きます。」

➜ Audio. Text Pianist folgt.

01:01:53 「受容は導入部ではこのように書かれます。」
彼はとっくに使われて良かったパストラールの」
調性へ長調を採用します」」

「へ長調は第1楽章では故意に避けられていましたが、」
ここではさながら救済のような効果があります」（1小節以下）

01:02:34 「導入部の終わりで彼は、片足を引きずるよう彼自身の」
障害まで受け入れています。」
ここではそれをほとんど愛情込めて茶化しているのです（10小節以下）

01:03:15 彼はここまで来ました。彼は克服の重荷を下ろしたからです。」
もはやあまり過去を振り返ることはなく、前を見て「活動」」
へと向かいます。」

人間はそれを芸術作品で表現するか、さまざまな機関の設立で」
表現します。」

ベートーヴェンがスパイラル第７期「活動」において」

01:04:04

あの有名な言葉を発しているのも偶然ではありません。」

日本語で書くと「人生の十字架は音楽のシャープとにている、」
どちらも高めてくれる」」

ふたつの十字架の効用の例は次の通りです。」
ムンクの人生の叫びでもある彼の絵画『叫び』」

アンデルセンの自伝的小説『みにくいアヒルの子』」
そして最後に「魂のこもったシュタイフの動物ぬいぐるみ」」

京都まで至る動物ぬいぐるみの架け橋は、」
マーガレット・シュタイフが障害者として築き
上げたものです。」

ハンマークラヴィーア・ソナタではこうした「活動」は」
第 4 楽章のフーガに聴かれます。」

➜ Audio. Text Pianist folgt.

01:04:42 ベートーヴェンは終楽章にフーガを選びました。」
なぜでしょう？」
本来ここにはまったく違う楽章が来るはずでした。」

しかしフーガは、同時に、しかも互いに無関係に」
形成された多声部からなるポリフォニー形式として」
見分けやすい。」

その結果、ソナタ形式にみられるような厳格な調性の」
順序はありません。」
どの調性も、どの声部も同じ権利を持っています。」

だからフーガは同権の形式なのです（10小節以下）

01:05:55 こうして我々は「いっしょに対処しよう」という」
スパイラル第 8 期「連帯」に到達します。」
個々の個性をみることが問題ではなく、社会のために」
何ができるかが問題なのです。」
ベートーヴェンはこの時期に《第九》だけでなく」
後期の弦楽四重奏曲やミサ・ソレムニスを書きました。」
和解的連帯に生きることが特に重要だったのです。」
ベートーヴェンは「連帯」に飢えていたので「頭で考える」」
ことでそれを創り出しました。」
彼はたとえば《第九》の自筆譜の欄外に注記を書き加。」
01:06:45 「おお友よ、こんな音ではなく」と。」

友達はまったくいませんでした。空想上の友達を紹介し、」
呼び掛けます。」
「友よ、こうした音の調べではなくもっと快く喜びに」
みちた歌をうたおう」」
彼は「もろびとよ、抱擁をうけよ」といいますが」
もろびとがいるわけではありません。」
ただ関係を求める彼の要求が非常に大きく、彼は（空想上の）」
もろびとに語りかけるのです。」
そして最後に彼の歓喜の声は漫画に描かれるほど大きくなり」
彼は音楽史の約束事をすべて飛び越えて、交響曲のジャンルに」
声楽曲のジャンルを組み入れ欄外にこう書くのです。」
「ついにやった。私自身がこう歌いたい。」
　歓喜よ、神々の美しいひらめきよ、歓喜、歓喜、歓喜よ」」

01:07:31 そしてまったく驚くべきことがある。」
それはコンスタンティン・バルツァントニーが教えてくれた」
彼からの贈り物なのだがハンマークラヴィーア・ソナタの」
最後の 12 小節は歓呼するベートーヴェンによる」
8 重スパイラルの跳躍そのものなのである。」

➜Audio. Pianist Text folgt.

01:04:42 「最後にベートーヴェンはソナタ全曲を12小節の定型で」
めくくります。」
低音から上方に跳び上がるオクターヴのトリルのあと」
下方へと跳び下、ふたたび上方にオクターヴのトリルへと」
跳び上がるのです」」

「半音階的によじ上る様は、人生は困難だがスパイラルの」
ように上昇する。諦めてはいけない、と言いたいかのようです。」

01:09:03 ハイリゲンシュタットの遺書から《第九》ないし」
ハンマークラヴィーア・ソナタまで 28 年の」
ベートーヴェンの成熟に感動を受けた人も少なくありません。」

❿ アンネ＝ゾフィー・ムター
「ベートーヴェンの抱擁の思想は私にとても」
大きな力を与えた」」
❿ クルト・マズーア
「ベートーヴェン、それは幸福な感情、」
私にとってはひとつの奇跡」」

01:09:30 ベートーヴェンの人生のスパイラルは美術の世界にもみられます。」

- これはシャルトルのスパイラル状の迷路です。」
- ダンテの『神曲』から地獄の審判者と清めの山、」
- 認識のスパイラルの路」
- 神殿のイエスは 8 重のスパイラルに座っています。」
- そして最後にキリストの磔刑図」
- ドライポイントによるスパイラルの糸の路が」
  最古の知覚器官である鼻の上で」
- 過去、現在、未来を結んでいます。」

- ゴッホは死の直前に描いた『星月夜』において」

- もういちど星辰を 2 重のスパイラルで描いています。」

- 巡礼者スーダマは聖地パンジャブへ向かっていますが」

- 自然に現れたスパイラルに悟りの路を見ています。」

- スパイラル巡礼路　－　聖地エルサレムへの巡礼行です。」

- 最後にヴァチカン美術館は螺旋階段によって我々を」

  や美術館へと誘います。」

私たちは 28 歳から 56 歳までのベートーヴェンの人生に」
「人生のスパイラル」を見ます。」
道なき路も切り開くことで普遍的な「人生のスパイラル」、」
危機からの創造的飛躍となる。」

考えるべきはベートーヴェン個人は彼の道を成し」
遂げることができたが、」
それを補うべき社会は新しい考え方を取ることが」
できなかったことです。」

樋口先生ご指摘の通り、」
今日では私の「相補モデル」によって対立を別様に」
学ぶことが可能となりました。」

01:11:31 ベートーヴェンの死後　－　埋葬の当日　－　」
社会は朔行を始めます。」
彼が孤独に死んだとき看取ったのはリースだけ、」
イギリスの援助を受けていました。」

ところが埋葬の日には 3 万人がシュヴァルツスパニア」ー
広場を埋め、グリルパルツァーの援助のもと、」
彼に最後の安息を与えるために集まったのです。」

01:11:59 死後 200 年経つと、世界は彼を賛美します。」
《第九》は 1972 年には「ヨーロッパ賛歌」となり」
2003 年には「世界文化遺産」となるのです。」

01:12:38 それだけではありません。」
ドイツ再統一という特別の創造的飛躍が我々に贈られたのです。」

「歓喜の頌歌」はかつては東西ベルリンに分割されていましたが」
再統一によって再びひとつとなったのです。」

もうひとつのベートーヴェンの町であるウィーンにも」
同様なことが起きました。」
有名なクリムトの「ベートーヴェン・フリーズ」は」

『ハイリゲンシュタットの遺書』（1802 年）から 100 年後に」
描かれましたが、悪評ばかりで切り離され、ゴミの様に捨てられましたが」

ひとりの支援者がゴミ捨て場から拾い」
さらに 100 年後、ふたたびひとつのものとして展示されました。」

今はウィーンの創造的奇跡として観客を吸い寄せています。」

01:13:24 ベートーヴェンはその死後世界中で（人間としても）崇拝され」
愛されました。」
生きていたときには崇拝や愛とは無縁だったのです。」

彼こそはまさに相補性の良い例です。」

- 病める健常者であり健全な病人
- 救いを求める者であり救いをもたらす者
- 死ぬほど愛されぬ者であり不滅なまでに愛される者

01:14:01 なぜでしょうか。」
敢えて言えば、彼にはそれが可能だったのです。」

『ハイリゲンシュタットの遺書』はベートヴェンの「死」」
であると同時に自らに克つという彼の意志によって」
「生まれ変わり」となったのです。」

神によってのみ与えられた彼の音楽の才能への感謝による」

「復活」だったのです。」
彼は『日記』に次のように記しています。」

「小さな家　　小さな礼拝堂
その中に私の歌が書かれる
全能の、永遠に限りない方の賛美のために」

➜ Audio: 《第九》より「歓喜の頌歌」　指揮　樋口隆一